

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	このえ鶴の木保育園
施設所在地	大田区鶴の木2-16-5
法人名	株式会社なないろ

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

アクションカード「防犯編」安全計画 声・音・動き～3感運動保育

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

本園はマンション内に設置された保育園であり、園舎のすぐ外には駅や商店街があり、常に様々な人が行き交う環境にある。この環境は、園の内外における人の出入りや動線を具体的に捉え、防犯について実生活と結び付けて考え、学ぶことができるという強みになる。

そこで本園では、オリジナル絵本やタペストリーを教具として用いることにした。「声・音・動き」の三感覚(聴覚・触覚・身体感覚)を取り入れ、安全計画「アクションカード防犯編」として不審者対応をテーマに設定。日常の中では経験しにくい、知っておくことで「自分を守る」「命を守る」行動ができるようになることを目指した。安心できる環境で教具を用いて安全行動をイメージし、子どもたちの言葉を引き出しながら学んでいくきっかけとするために本テーマを設定した。

## 2. 活動スケジュール

すくわくプログラムへ参加する為に勉強会を実施。

本部保育責任者とともに活動内容とねらいに対する視点合わせを行う。

微細運動教具を制作するにあたり、子どもの興味関心や微細運動の種類について担当者間で話し合いを行う。

子どもたちが分かりやすく、親しみやすい絵本・ストーリーを担当者で話し合いの上、作成する。

個々の発達、年齢に応じてタペストリーや絵本を用いて「アクションカード」や「いかのおすし」について知る機会を設ける。

タペストリーや絵本を随時子どもたちの手に取れる所に置き、子どもたちの遊ぶ姿や反応を観察する。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

【問いを考える】発達に沿った内容で、保育者が子どもの問いかけや気付きに耳を傾けながら「いかのおすしってなあに?」「アクションカードってなんだろう?」と子どもたちから言葉を引き出していき環境を整えた。

【微細運動教具・絵本の制作】防犯に関する絵本とそれに連動したタペストリーを2パターン準備した。子どもたちが楽しみながらパーツを取り外し出来る使用になっており、言葉を引き出しながらパーツを手に取りタペストリー上で微細運動が出来るよう工夫した。

## 4. 探究活動の実践

### <活動の内容>

#### 【いかのおすし編】

・1回目：「いかのおすし」とは何か、タペストリーを用いて子どもたちに問いかける。子どもたちがそれぞれ考えを述べた後、「いかのおすし」について説明する。また、タペストリー内で遊べる微細運動についても紹介し、パーツを並べたり引っ張ったりして遊ぶ。

・2回目：前回学んだ「いかのおすし」について振り返りを行う。微細運動も一緒に行うことで、より身近なものとして防犯標語を学ぶ。

・3回目：振り返りを行った後、専門家のナレーションに合わせて、タペストリーを用いた微細運動を実践する。

#### 【アクションカード編】

・1回目：「アクションカードとは何か」と問いかけ、子どもたちから様々な意見を引き出した後、使い方や意味を説明する。タペストリーの使い方も説明し、見本と同様に並べたり、実際の物語に合わせて教具を動かして遊んだりする。

・2回目：前回学んだアクションカードの内容について振り返る。また、絵本を自分たちで完成させ、その後、物語を自分たちで再現する遊びを行う。

・3回目：実際に戸外へ出掛けた時に不審者に遭遇したと想定し、子どもたちと「どうすべきなのか」「何が大切か」などについて話し合いを行う。

### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

#### 【いかのおすし編】

子どもたちはとても興味を示し、保育者の話を聞いていた。「いかのおすし」という言葉に馴染みがなく、最初の問いかけに対しては「海?」「生き物?」など、連想ゲームのような回答が返ってきた。そこで「悪い人に連れていかれそうになったらどうする?」と身近に感じられる投げかけに変えてみると、親近感が湧いたのか、具体的な行動案が聞こえるようになった。回を重ねるごとにしっかりと学びを得ているのが分かり、タペストリーを見ると「いかのおすしだ」「悪い人にはついていけないんだよね」と、子ども同士での会話も弾むようになった。微細運動に関しても、遊び方や物語について子ども同士で活発にやり取りする姿が見られた。

#### 【アクションカード編】

「アクションカード」について知っていることを教えてほしいと投げかけると、子どもたちなりに考え、「お散歩のリュックにつける」など、持っている知識を存分に話そうとする場面が見られた。保育者がアクションカードの意味やそれぞれのカードの役割について説明すると、しっかりと話を聞き、理解しようとする姿が見られた。また、絵本を自分たちで完成させ、実際に物語を再現する際には、「このあいだ、こんな話をしたからね」と、学んだことを子ども同士で共有する場面も見られた。もしもを想定した話し合いでは、「危ないと感じる場面」について子どもたちが真剣に議論し、それぞれ考えが違うことに気付き、お互いの意見を認め合う様子も見られた。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

どちらのテーマも子どもたちにとっては少し難しい内容かと思われたが、馴染みのない言葉や物だからこそ「興味・関心」から探究が始まったように感じた。回を重ねるごとに子どもたちの知識や学びがしっかりと活かされ、「悪い人にはついていかない」「困った時は大きな声を出す」といった約束事を自ら発言したり、「他クラスのお友だちは知らないから教えてあげよう」と学びの共有を行ったりする様子が見られ、この活動が子どもの成長に大きな役割を果たしていると実感した。

また、教具を用いての微細運動を通し、友達同士での関わりも活発になった。保育者としても、自らの問いかけに対して子どもたちがどのような発言をするか予想したり、子どもたちが発する言葉の真意を深く考えたりする、非常に良い機会となった。